

## 7 集落と地名

地名には、地形や植物など、その土地の自然の特徴から付けられたもの、伝説、施設、人物、新田開発、条里荘園など歴史性を持ったもの、また神社仏閣、瑞祥から付けられたものなどがあります。

庄内川や内津川沿いに、古い集落が形成されたのは、古代・中世にまでさかのぼり、松河戸はこのような古村になります。

古村には、その土地の自然の特徴から付けられたものが多くあります。

地名は、ふる里の無形文化財と言います。

区画整理前まで使われていた松河戸の地名、名称についてみてみます。

- (1) 「松河戸」の地名 ..... p206
- (2) 松河戸区域の動向 ..... p207
- (3) 「松河戸内」の、かつての地名・名称 ..... p208



松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## (1)「松河戸」の地名

庄内川沿いには、多くの古村が集まっており、川沿いは全て中世以前からの古村で、現在の町名にすべて継承されています。

上流から、「玉野」、「高蔵寺」、(久木、足振)、(上大留、下大留)、「堀ノ内」、「神領」、「桜佐」、(野田、牛毛、名栗)、「下津」、「上条」、「下条」、「中切」、「松河戸」、「勝川」の18村です。

そのうち、改名があったのは、久木村と足振による「気噴村」と、上大留と下大留による「大留村」、野田、牛毛、名栗による「熊野村」の3村です。

命名由来別に見てみると、瑞祥、施設、条里荘園、動植物、地形・位置、寺社などから付けられたと思われるものがありますが、松河戸は「施設」から由来したと言われています。

瑞祥	施設	条里荘園	動植物	地形・位置	寺社
玉野、勝川	下津、 <b>松河戸</b> 、大留、堀ノ内	上条、下条	桜佐、	中切	高蔵寺、神領、気噴、熊野村

しかし、康治2年(1143)頃の資料である安食荘絵図(p14)では、松河戸は「石河田」、勝川は「賀智」となっています。

また、今から460年前の永禄6年(1563)～9年(1566)の定光寺祠堂帳には「松川渡」とあります。

この地域では、「マツカイド」「マツキャアド」と方言で呼んでいます。

「尾張国地名考」という江戸時代の文化13年(1816)の書物には「此村往昔は、玉野川下流の端にありて、松ある河戸也、故に呼、但し河戸は河門にて川口といふが如し…」とあることから、ムラ組織ができた室町時代頃に「石河田」の発音に「松川渡」、「松河戸」の字を当てたものと考えられています。

「尾張国地名考」にある「河戸」とは、庄内川沿いの低湿地帯を流れる排水路が庄内川に流れ込む河口や灌漑用水を取るために堤防に作った坎のことで、この地方の方言で「ごうど」や「こうど」といいます。

江戸時代の松河戸村絵図(天保12年(1840))には東と西に堤防の切れ目があり、そこを排水路が流れていました。

この水路の水門は片開きの大きな板戸で、通常は排水のため三分の一程が開放されていました。

庄内川の水位が上昇すると水圧によって水門が閉じ、集落や田畑を守るようになっていました。

また、文化10年(1813)の庄内川絵図には、松河戸村の堤防上に松並木がみられます。

この松は流し松といい、水害を防ぐため植えてありました。増水すると伐って堤防に横たえ、水が直接堤防に当たらないようにするために、昭和30年代頃まで見られました。

以上の事情により、地形から付けられたと思われる「石河田」という発音に、植物の「松」、施設



▲平成8年頃 くいちがい堤防 余所の地区では見られないが中切に1ヶ所、松河戸は東西に1ヶ所ずつあった。ここには大きな排水門があり、庄内川の水が増えると自動で門が開き水は入らない。庄内川の水が引くと自動で門が閉き部落内の水が流れる。

現在の河戸跡(西))

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会



流し松

堤防には松が植えられていたが、増水すると伐って堤防に横たえ、水が直接堤防に当たらない様にした。

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会

の「河戸」から、松河戸の地名が付いたものと考えられます。

行政区域としては、下記の様に変遷しています。

近世	尾張藩春日井郡松河戸村
明治 2 年 6 月	名古屋藩春日井郡松河戸村
明治 4 年 7 月	名古屋第 3 大区第 10 小区松河戸村
明治 5 年 4 月	愛知県第 3 大区第 10 小区松河戸村
明治 9 年 8 月	愛知県第 3 区松河戸村
明治 11 年 12 月	愛知県春日井郡松河戸村
明治 13 年 2 月	愛知県東春日井郡松河戸村
明治 22 年 10 月	愛知県東春日井郡小野村大字松河戸
明治 39 年 7 月	愛知県東春日井郡鳥居松村大字松河戸
昭和 18 年 6 月	愛知県春日井市鳥居松村大字松河戸
昭和 23 年	愛知県春日井市松河戸町(松河戸新田が松河戸町から分離し「松新町」となる。)
昭和 53 年	「小野村の一部」が松河戸町から分離
昭和 55 年	「愛知」、「細木」、「町田」が松河戸町から分離

## (2) 松河戸区域の動向

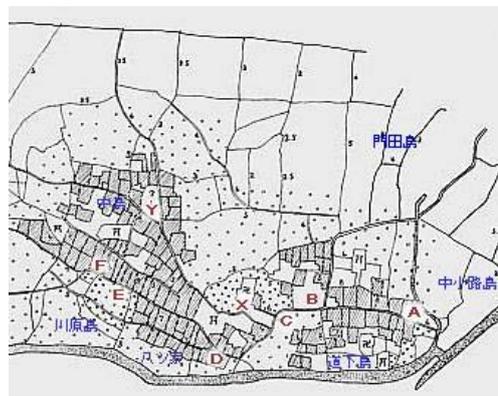
庄内川右岸、氾濫原の沖積低地に立地し、古くからの民家は「河戸」と「村中」に集中しており、6つの島からなりたっていました。

かつて集落の東側を北北西の方向に、西側を北北東の方向に集落を囲む形で庄内川の堤防から「ヨゲ」堤が伸びていました。

集落の東にあたる河戸の辺りでは、堤防のすぐ下まで民家が建てられており、最小の自治組織の「道下島」、「中小路島」、「門田島」があり、観音寺を挟んで西にあたる村中には「八ツ家島」、「川原島」、「中島」の三つの島に分かれていました。

(昭和 30 年頃までは 6 つの島であったが、道下島は戸数が減少し 5 軒になったので、中小路と合併し「河戸島」となった。)

村の中心道は中切村から入り中小路、八ツ家、川原島を通る A から F を結んでおり、村の祭事には X(観音寺)から Y(お墓)の葬式道を避けてきました。



松河戸村の道 明治 17 年地籍図 (愛知県公文書館蔵)

当地区には、下街道沿いの集落「松河戸新田」(松新)が所属していましたが、昭和 23 年に分離して現在は「松新町」として勝川地区商店街に含まれています。

また、庄内川の向こう岸の渡った南側にも松河戸の新田がありました。

昭和 28 年王子製紙の操業が始まると、地藏川一帯は工業系地区に指定され、その結果、松河戸の西部にあたる「細木」、「一ツ橋」、「段ノ下」などは、愛知電機工作所をはじめ、中小の工場群の進出がみられ、この地区は松河戸から分離し集落の景観も大きく変わりました。

かつて松河戸の美しい水田が広がっていた「小野」、「愛知」、「細木」、「町田」も町として分離し、最後まで残っていた松河戸の中心地域も区画整理により、かつての面影はなくなっていました。しかし、かつての松河戸内の地名は、分離した町の町名として、また松河戸区内の公園の名前として現在も残っています。

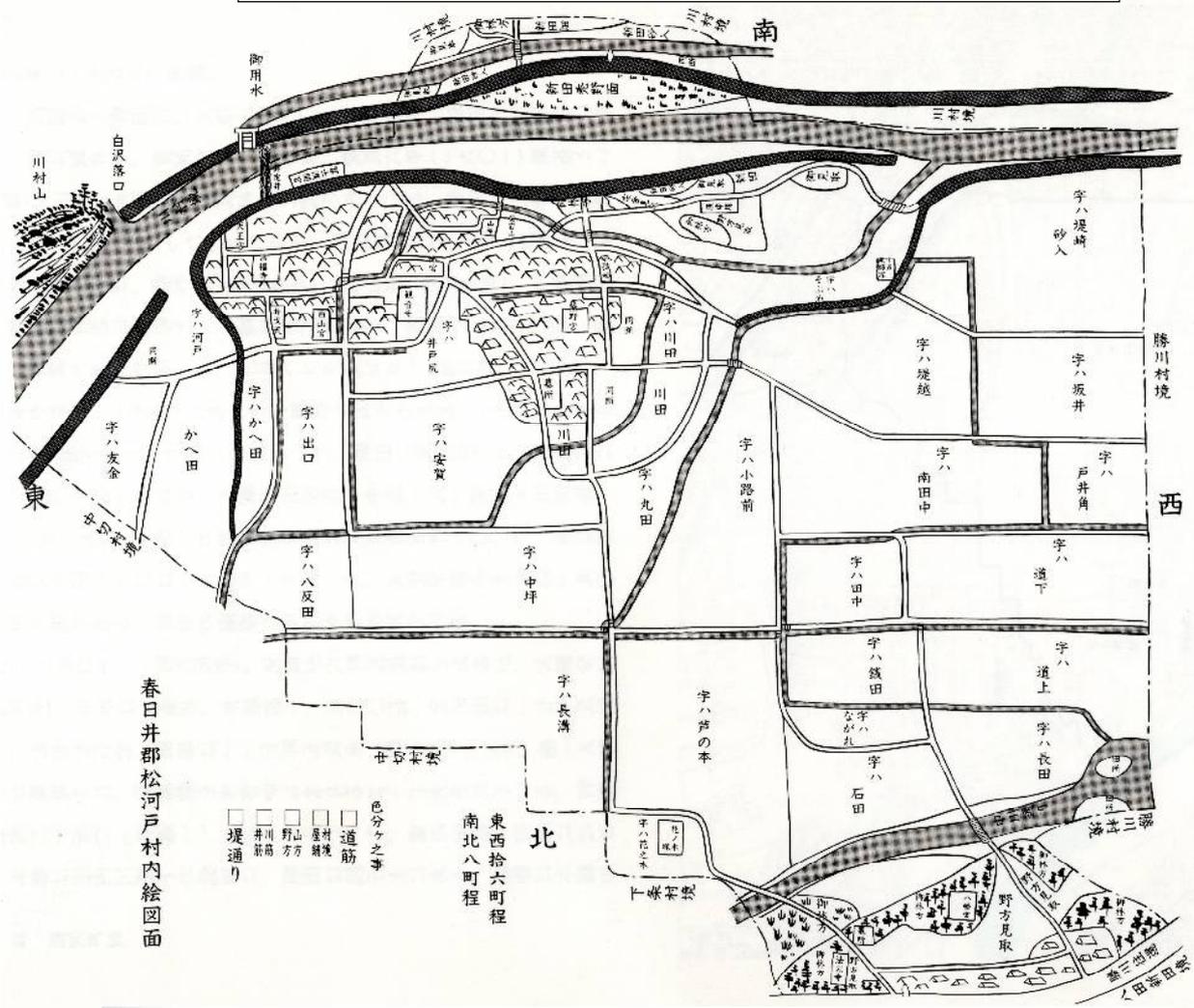
## (3) 「松河戸内」の、かつての地名・名称

- ① 庄内川<sup>しょうないがわ</sup> ……松河戸では大川と呼んでいた。江戸時代に農業集落である山田庄（現在の名古屋市西区（玉野川）付近）などの庄の内を流れていたのが庄内川と呼ばれるようになったと言われている。
- ② 河戸<sup>こうど</sup> ……川口（灌漑用水を取るために堤防に造った杵のこと）
- ③ 村中<sup>むらなか</sup> ……集落の中心地
- ④ 段の下<sup>だん</sup> ……西食違いの所にあつて、庄内川よりやや低い所。現在の段下公園辺り
- ⑤ 堤越<sup>つつみこし</sup> ……堤（水を防ぐため小高く土をもったヨゲづつみ）の向こう側で開拓した所
- ⑥ 一ツ橋<sup>ひとつばし</sup> ……別名つつみさき。西食違いの排水路に橋をかけて田畑へ渡った。
- ⑦ 安賀<sup>やすが</sup> ……条里制地割の遺構が広く残っている松河戸の米作の一等地。現在の安賀公園辺り
- ⑧ 十二飛<sup>じんとび</sup> ……飛地でよく氾濫した所、小さな板を渡し耕作に出かけた。条里制地割の遺構が残っている。
- ⑨ 流れ<sup>なが</sup> ……昔、川の流れていた所、巾川が氾濫して田が流れた所
- ⑩ 巾川<sup>はばがわ</sup> ……巾川(地藏川)の水で水田化された所  
ハバは側面の事をいい、鳥居松段丘側面を流れている川で、現在の地藏川をいう。
- ⑪ 町田<sup>ちょうだ</sup> ……一町歩区画の田が連なっていた所(条里制遺構)
- ⑫ 細木<sup>ほそぎ</sup> ……条理地割の長地型(109メートル×10.9メートル)が顕著に見られる。
- ⑬ 松河戸新田… 現在の松新町
- ⑭ 熊山<sup>くまやま</sup> ……「くま」は元々は「隈」で、「片隅の奥まった山」の意味。松河戸の北西の隈の山
- ⑮ 荒田 ……現在、愛知電機になっている所で砂入りの場所
- ⑯ そぶ池 ……酸化鉄を含んだ水を「そぶ」ともいう。なごや精工のある辺りの湿地
- ⑰ かへ田 ……この辺りの水田は地盤が高く、水路の水をかえ取って、水をかけたところ
- ⑱ 御愛宕<sup>おほえだご</sup>(山の畑、愛宕山) ……愛宕社が在った所で大正の耕地整理以前は周りより少し高くなっていた。
- ⑲ 井戸尻<sup>いどじり</sup> ……井戸とは、清水の事で庄内川の旧河道に沿って水がわきだしている土地で、一番端(尻)の所
- ⑳ どんぼれ ……河戸の元あった駐在所の辺りの低地で、洪水になると「うず」を巻いて水が浸み込む所

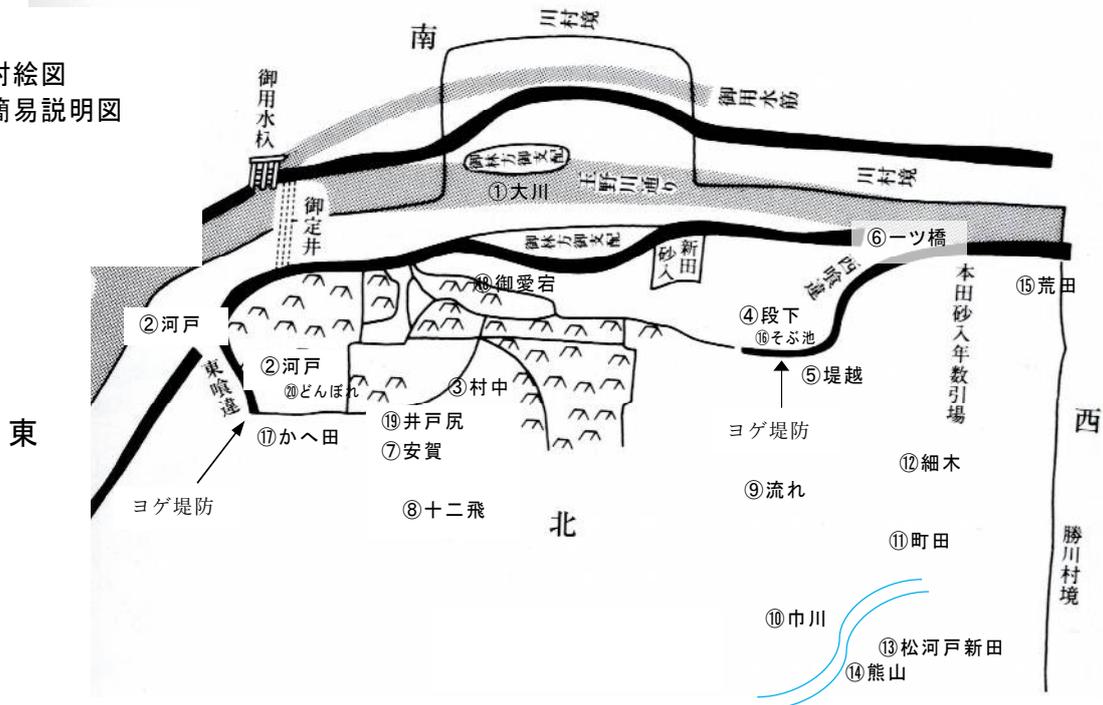
## 用語

- ⑲ 堤外<sup>ていがい</sup> ……庄内河川敷にあった畑を指す。現在はグラウンドとして利用されている。
- ⑳ 小櫃<sup>こひつ</sup> ……字内の地籍は小さな筆に分かれている。小筆の当て字
- ㉑ 砂入<sup>すな入り</sup> ……水害によって土砂が入り、使用不能になる場合が多い田
- ㉒ 御見取 ……やせた土地や新田などで収穫が不安定なため、石高をつけないが、将来地味成熟すれば村高に編入する見込みがある田地
- ㉓ 御林(御留山・林) ……公用材保持のため伐採を禁止された山林
- ㉔ 杵・樋杵 ……灌漑用水の水門、規模の小さい物は樋杵定井・井堰(井瀬木) 川に堰など造り灌漑用水を取入れる所、小規模な所を堰
- ㉕ 山方・野方 ……村方、町方、浜方に属さない山林・原

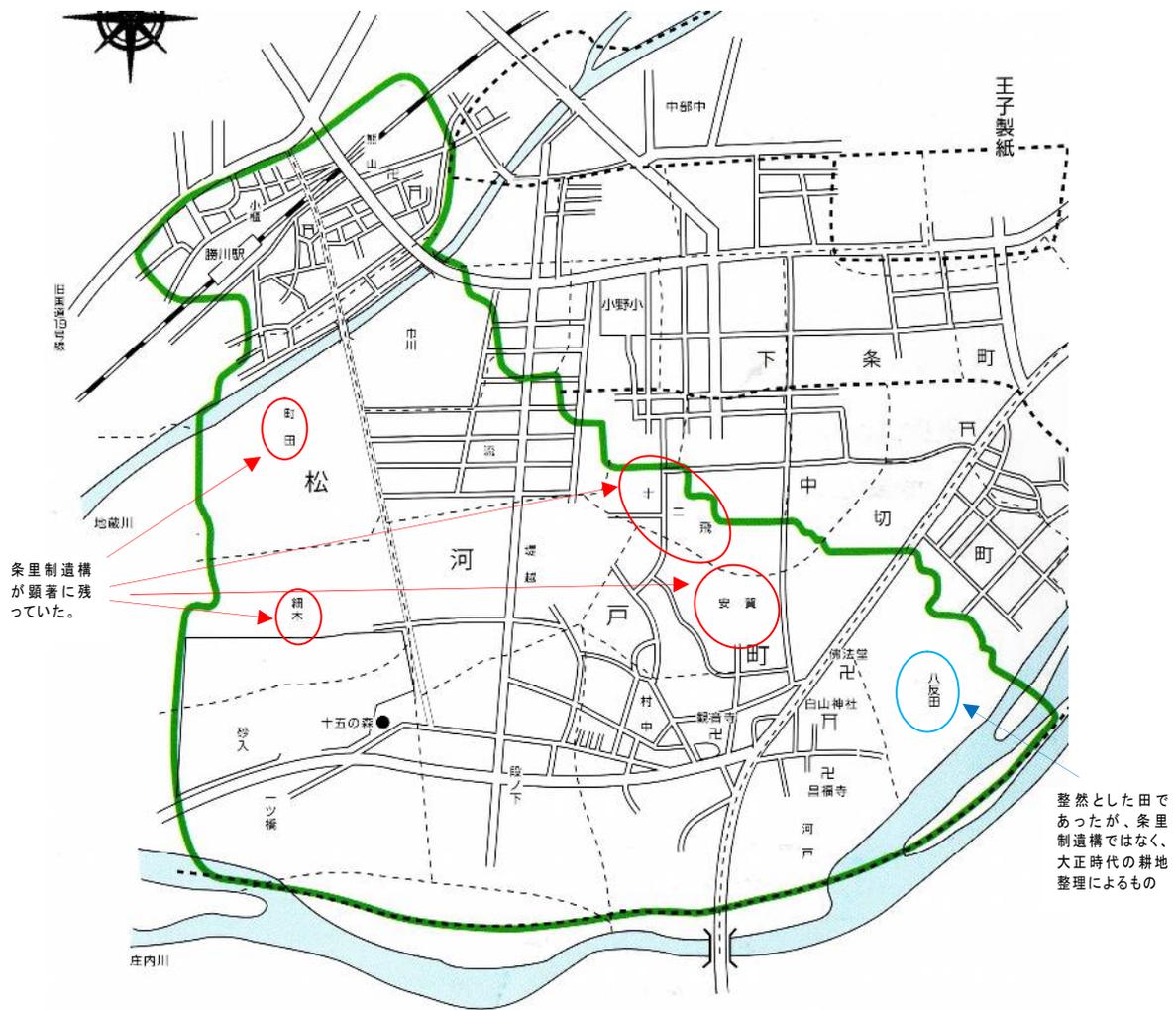
松河戸村絵図 天保12年(1840) 上が南



松河戸村絵図  
上図の簡易説明図



**地図は昭和 50 年頃** 昭和 23 年に松新が分離するまで松河戸は緑枠の地域であった。



写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会

《参考資料》

- 春日井市広報春日井の地名物語より
- 春日井市史 地区誌編 2
- 写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会

松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>